

★ ペンテコステ とは ★

『神は 愛なり。(Iヨハネ 4:16)』

今日の日曜日、6月の第2週目にあたる8日は、教会にとって2つのお祝いの行事が重なります。その1つを ペンテコステ (聖霊降臨日)といいます。これは 世界中のキリスト教会で、その働き“始まり”を記念してお祝いする、言わば『教会の誕生日』です。イエス・キリストは 十字架上で人として死なれた後 3日目に復活されました。その日を『イースター』といいますが、その日から数えて40日間、イエスさまは、確かによみがえられた証として 手や足に打ち付けられた釘跡や わき腹に刺された槍の跡をそのままに、人々の目に見える形で あちこちに現れ、自らの姿を通して多くの人達に 神様の御業と愛を伝えられました。やがて 愛する弟子達を集められ、その目の前で『わたしは世の終わりまで あなたがたと共にいます。』との約束を残し、真の父である神様のもと 天へと帰られました。その日からは二度と ご自身の姿を人々に現されることはありませんでした。これは、イースターよりちょうど40日目となり、この日を『昇天日』と言います。そして イエスさまは この時、「私が天へ帰った後、私の代わりに“助け主” が来てくれます。」と もう一つの約束をしてくださいました。「目には見えないけれど、あなたがたの心に生きて働く力を与えます。』とってくださいました。それが『聖霊』というものです。よく耳にする「三位一体」という言葉は、これが語源です。すなわち「神様である天の父」「そのひとり子であるイエスさま」そして「人の心に働く神様の不思議な力としての聖霊」、この3つが、それぞれに形は異なりますがその“基”は同じ「神」であるという意味を示しています。そして この神様の不思議な力＝聖霊が与えられる日が 間もなく訪れます。それは、大好きな師である イエスさまが 目の前で天へ昇り、その日から喪失感と絶望感で 途方にくれ、悲しみに打ちひしがれながら 茫然自失の状態で毎日を過ごしていた弟子達の心に、その不思議な神さまの力『聖霊』が 突然 注がれるのです。

『昇天日』から10日、イースターから50日が経った日の出来事でした。この時の様子が詳しく新約聖書には 次のように記述されています。『五旬節の日になって、皆が一つの所に集まっていた。すると突然、天から激しい風が吹いてくるような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。また 炎のような分かれた舌が現われて一人ひとりのの上にとどまった。すると皆が聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国の言葉で話し出した。(使徒の働き2:1-4)』

イースターやクリスマス、そして 昇天などに続き、この出来事も 人間の業では 決して起こせない、且つ そのまま素直には信じ難いような、不思議なものでした。けれども、真実であり事実であると証明できるのは、この瞬間から一転した 弟子達の姿でした。まるで抜け殻のようだった彼らの姿は別人のように明るく輝き始め、力が みなぎり、自信をもって自分達の神さまへの信仰を大胆に語り、互いに祈り合い、励まし合ったのです。どんな時も 生きて働いて下さっている神様の聖霊を実感し、聖書のみことばを、何よりも自分達を愛し、ずっと共にいてくださった 復活の主イエス・キリストを、人々に伝えようと立ち上がったのでした。そして 一つ所に住み、すべてのものを共有し分かち合い皆で 神さまを賛美し、聖書のみことばを語り合い、人々のために祈り、今までイエスさまがされた生き方を倣い、あちこちへと歩き、たくさんの人々と出会い、神様の愛に立ち返らせたのでした。それはエルサレムに留まることなく、近隣の国々の大勢の人々にまで 語り伝えられていきました。この時の 聖霊による弟子達の働きがあったからこそ、私達日本人に限らず世界中の国々の人々は 今 こうして 聖書を手に出来ているのです。ここに 神様の御手の業の深い恵みを感じます。

つるぶえ保育園でも、このペンテコステ礼拝を 隣の成田教会に伺い、教会員の方と共にいきます。生まれて初めて足を運ぶ子ども達もいますが、心静かに聖書のメッセージを聞き、大好きな讃美歌を歌いながら 子どもも大人も共に、祈りを合わせ、『教会のお誕生日』をお祝いしたいと思います。2000年以上前に 弟子達が始めた 共に祈り合い 分かち合い 互いを尊重し 仕え合う生き方に 想いを馳せ、今を生きる私達にも変わらず注がれている 神様の愛に感謝したいと思います。(石田 記)